

目次

はしがき

第I部 自由と安全と刑法

日本における法益論の歴史的検討……………嘉門 優 (3)

——「学派の争い」を中心として——

法益論と社会侵害性について……………中村 悠人 (27)

法益侵害と意思侵害……………松原 芳博 (48)

——住居侵入罪、詐欺罪、窃盗罪に関する近時の判例をめぐって——

危険犯・小論……………武田 誠 (65)

——遺棄罪の解釈を出発点として——

組織犯罪・テロリズムとの闘い?……………佐川友佳子 (79)

国家秘密の概念とその立証……………安達 光治 (103)

——判例における実質秘の概念をめぐって——

自由と安全と生命倫理

—— 胚の保護を巡って ——

浅田 和茂 (125)

児童ポルノ単純所持の処罰根拠について

—— ドイツの議論を手がかりに ——

豊田 兼彦 (143)

風営法「ダンス」規制の問題性

高山佳奈子 (155)

心理強制説をめぐる十九世紀前半の議論

—— フォイエルバッハの「威嚇」論はどのように受け止められたのか ——

高橋 直人 (177)

刑法史認識の対象と方法について

本田 稔 (193)

第Ⅱ部 現代社会と刑法解釈

譲渡担保権者による目的物の不承諾引揚げと自救行為

大下 英希 (211)

刑法における過失概念の規定のあり方に関する一考察

—— ドウトゲーヘルツベルグ論争を手掛かりにして ——

玄 守道 (236)

麻薬事例における被害者の危険引受け

塩谷 毅 (266)

フランスにおける弁識能力と年齢

—— 犯罪少年に関する一九四二年七月二七日の法律を素材として ——

井上 宜裕 (284)

真正身分犯の共犯について……………金子 博 (299)

——共犯の処罰根拠の観点から——

名誉侵害罪における「人」の範囲……………金 尚均 (320)

虚偽犯罪予告行為と業務妨害罪……………野澤 充 (335)

詐欺罪と機能的治安法……………松宮 孝明 (361)

——ゴルフ場詐欺事件および近年の諸判例を手掛かりにして——

国税滞納処分免脱罪に関する一考察……………石塚 伸一 (391)

——仮装譲渡と真正譲渡について——

証券犯罪と刑事規制……………平山 幹子 (417)

第三部 人権保障と刑事手続

裁判員制度の「見直し」について……………内田 博文 (437)

退去強制と刑事手続に関する「法の不備」(再論)……………小山 雅亀 (457)

——立法的解決を目指して——

国選弁護制度の現状と課題……………辻本 典央 (476)

ドイツにおける勾留審査手続について	山名	京子	(496)
被疑者・被告人の防御権	福島	至	(520)
——接見室におけるスマートフォン等電子機器持ち込み問題を契機に——			
防御の秘密と捜索・差押えの限界	渕野	貴生	(537)
障がいのある被疑者の取調べにおける支援と適正手続保障	森久	智江	(560)
——オーストラリア・ビクトリア州Office of Public Advocateの活動から——			
無罪判決後の勾留	川崎	英明	(582)
袴田事件第二次再審請求における静岡地裁開始決定の意義	葛野	尋之	(602)
——刑事司法改革とも関連させて——			
間接事実にもとづく有罪認定の準則・覚書	高田	昭正	(631)
我が国における裁判所侮辱（特に直接侮辱）への対応法制とその適用の現状	吉井	匡	(646)
——「法廷等の秩序維持に関する法律」の検討を中心に——			
第IV部 人間の尊厳と刑事政策			
「死刑モラトリアム」のゆくえ	上田	寛	(671)
——ロシアにおける死刑制度をめぐる論議の動向——			

地域の安全、リスクと犯罪者の社会内処遇

三宅 孝之 (695)

米国少年司法の新動向

山口 直也 (713)

——脱・厳罰主義から学ぶべきこと——

生田勝義先生 略歴・主要著作目録

執筆者紹介